指導者のための情報紙
URL：http://www.saitama-sports.or.jp/junior_club/
彩の国
スポーツともだち仲間たち
No.23
発行：財団法人 埼玉県体育協会 埼玉県スポーツ少年団　〒330-0063 さいたま市浦和区高砂3-14-1　埼玉県自治会館3F

この情報紙は各単位団へ3部配布しています。指導者・母集団に回覧しましょう。

第16回埼玉県スポーツ少年団バドミントン（ダブルス）大会

2月27日、第16回埼玉県スポーツ少年団バドミントン（ダブルス）大会（主催：㈶埼玉県体育協会埼玉県スポーツ少年団・埼玉県教育委員会、主管：埼玉県スポーツ少年団バドミントン部会、後援：埼玉県バドミントン協会・埼玉県小学生バドミントン連盟）が、蓮田市総合市民体育館（パルシー）で開催されました。

県内から28チーム、200余名の選手が参加して、12ブロックに分かれ、ブロックごとにリーグ戦、決勝トーナメントを行いました。

この大会は、6年生を対象に毎年この時期に開催されているもので、6年生の参加者全員にメダルが授与されました。各ブロックの入賞者は次のとおりです。（一部団名を省略）

＜Aブロック＞①酒井・小林（シャトラーズ）②吾妻・重松（シャトラーズ）　＜Bブロック＞①窪田・岡本（蓮田サウスシャトラーズ）②後藤・山崎（所沢ジュニア）　＜Cブロック＞①長沼・野本栞（加須スターズ）②桶田・平田（蓮田サウスシャトラーズ）　＜Dブロック＞①小川・横山（ジュニアスマッシュ）②眞木・金井（嵐山ジュニア）　＜Eブロック＞①高崎和・小松（都幾川シャトルズ）②小椋・堀越（アップルズ）　＜Fブロック＞①出井・中村（幸手白翔）②土屋・吉田（行田バドミントン）　＜Gブロック＞①高崎麻・山口（都幾川シャトルズ）②関根・金城（太田ホワイト）③野本晃・柿沼（加須スターズ）　＜Hブロック＞①持田・岡野（都幾川シャトルズ）②篠原・木島（シャトラーズ）③吉水・昆（庄和シャトルズ）　＜Iブロック＞①染野・小林（行田バドミントン）②鳥松・立花（入間スポ少）　＜Jブロック＞①井上・吉川（川口朝日バドミントン）②山崎・赤坂（小川ドリーム）　＜Kブロック＞①内沼・柳澤（ホワイトエンジェルス）②黒鳥・萩原（川口朝日バドミントン）　＜Lブロック＞①堀井・市川（都幾川シャトルズ）②小林由・貫井（上里シャトル）

2月11日（祝）、第27回埼玉県スポーツ少年団駅伝競走大会（主催：埼玉県教育委員会・㈶埼玉県体育協会埼玉県スポーツ少年団、主管：朝霞市スポーツ少年団、後援：朝霞市教育委員会・朝霞市体育協会・朝霞市陸上競技協会、協力：朝霞地区交通安全協会朝霞支部）が、朝霞市中央公園陸上競技場周辺コースで開催されました。

寒さが厳しく、雨が心配された天気でしたが、女子31チーム、男子48チームが参加しました。優勝は男女ともファイトマラソンチーム（川越市）でしたが、女子ではミニバスケット、男子ではサッカーの上位入賞が目立ちました。

＜女子の部＞（一部団名を省略）

①ファイトマラソン　②大和田ミニバス　③柏葉バスケット　④東松山陸上　⑤上尾芝川ミニバス　⑥新座新開　⑦高麗川フェニックス　⑧鶴ヶ島南ミニバス（以下着順）志木チェリーズミニバス・東川口女子ミニバス・高萩エンジェルス・越生エンドレスミニバス・さしまミニバス・石神・吉見西ウイングス・朝霞台ユニオンズ・小川町陸上競技・SC和光ベレーザ・朝霞サンズ・芝・朝霞フレンドリーズ・高萩北チェリーズ・ジュベニール白岡・伊草ジュニアバレー・西少女ソフト・朝霞ジュニアバレー・志木バーズ・久喜フレンズ・太陽フェニックス・JACアサカ・常盤

＜男子の部＞（一部団名を省略）

①ファイトマラソン　②戸塚フットボール　③尾山台イレブン　④FC宗岡　⑤ジュベニール白岡　⑥吉見西ウイングス　⑦青葉エンゼルス　⑧若松キッカーズ（以下着順）新座たけしのキッカーズ・北本キッカーズ・朝霞いずみ・新座新開・レッツドラゴンサッカー・大和田ミニバス・レッツアサカサッカー・白岡ボーイズ・朝志ケ丘サッカー・東松山陸上競技・青木中央少年サッカー・FCコスモス・柏葉バスケット・アズマフットボール・新座スカイファイターズ・大利根サッカー・朝霞栄・太陽フェニックス・伊草・鳩ヶ谷キッカーズ・朝霞台ユニオンズ・久喜レインボーズ・志木チェリーズミニバス・志木ニュータウンズ・朝霞サンズ・横瀬武甲・黒須ドルフィンズ・三室ホークス・加茂川ワイルドダックス・香日向ベアーズ・芝・志木バーズ・小川町陸上競技・加須東少年野球・高麗川フェニックス・JACアサカ・FC和光キッカーズ・三原FC・KOBATOサッカー・常盤

22年度から全市町村本部で指導者の再研修受講管理システム導入へ

― 実施開始は７月から ―

指導者の資質向上を目的に、県本部では市町村本部の協力を得て認定員の資格取得研修会を実施する一方、既に資格を保有する指導者にあっては再研修を受講していただき、より一層の指導力アップを図りたいと考えています。

そのため、22年度から再研修を受講された指導者と、まだ受講されてない指導者を把握するため、市町村本部での受講管理システムを導入することとしました。（３月４日開催の県本部員会にて決定）

＜受講管理の概要＞

1．実施開始は７月から。（６月中に管理システムのフォーマットを県本部から市町村本部へ送付します）

2．実施に当たっては、市町村本部の態勢などを考慮し、義務的ではなく、できる限り取り組んでもらうこととしました。

3．県本部では、事業のPRに努め、市町村本部の理解と協力をお願いします。

4．現在補助事業として実施している認定員指導者の研修会開催要綱を改定し、再研修を含めて事業数の拡大を図ります。

具体的には、①補助金額を３万円とします。②事業数をこれまでの14から25に拡大します。③研修時間数を４時間とします。

＊参考：21年度県内指導者数と有資格者資格保有数
指導者数：18,339人
内有資格者資格保有数：10,985人
資格保有率：59.9%（全国10位）

各市町村本部及び関係者ご理解とご協力をお願いします。

埼玉県スポーツ少年団　種目別大会結果（一部団名を省略）

第28回夏季小学生軟式野球交流大会

優勝：美谷本ファイターズ（戸田市）　準優勝：中丸ブレーブス（北本市）　3位：浦和パワーズ（さいたま市）・秩父ドリームズ（秩父市）

第34回小学生軟式野球交流大会

優勝：富士見コンドルズ（上尾市）　準優勝：中尾ライガース（さいたま市）　3位：大東スポーツクラブ（川越市）・南浦和アタックス（さいたま市）

第32回中学生軟式野球交流大会

優勝：戸田クラブ（戸田市）　準優勝：羽生東クラブ（羽生市）　3位：彩野ベースボールクラブ（白岡町）・埼玉ジャイアンツ（東秩父村）

第28回ミニバスケットボール交流大会

＜男子＞優勝：川越エルフ（川越市）　準優勝：新座新開（新座市）　3位：鳩ヶ谷桜（鳩ヶ谷市）　4位：上里ミニバスケットボール（上里町）

＜女子＞優勝：川口じりんMBC（川口市）　準優勝：与野南女子ミニバスケットボール（さいたま市）　3位：児玉ミニバスケットボール（本庄市）　4位：吉見西ウイングス（吉見町）

第32回ソフトボール中央大会

＜男子＞優勝：太陽フェニックス　準優勝：仲本ソフトボール　3位：大東ソフトボール・おかべソフトボール

＜女子＞優勝：鶴ヶ島レッドファイターズ　準優勝：水富セネタース　3位：菁莪ヤングエンジェルス・川本女子ソフトボール

第25回空手道交流大会

【形競技】

小学生男子＜1年＞①鈴木　蓮　②金田　緑　③阿部倖地・大塚一輝　＜2年＞①瀬山　翼　②宮崎悠叶　③佐藤龍真・佐藤大希　＜3年＞①矢口　陸　②塩原明機　③林慧人・佐藤慶吾　＜4年＞①大美賀裕也　②越智湧也　③河原啓志・梶本玲央　＜5年＞①釜賀永介　②上篠　海　③本多　蓮・塩原尚樹　＜6年＞①藤本大輝　②川添聖太　③藤原幸大・鈴木結也

小学生女子＜1年＞①矢口歌子　②竹下穂香　③小林未空・山田梨央　＜2年＞①小島夢姫　②河田あんな　③河原悠那・石井聖南　＜3年＞①上野彩果　②大江乃々夏　③吉田萌笑・高井友輝　＜4年＞①竹下綾香　②小林真由　③小熊莉奈・塚本　楓　＜5年＞①松島美桜　②平原理子　③臼方菜々海・伊藤いぶき　＜6年＞①小林美帆　②佐藤柚奈　③武居　怜・岸田宥乃

中学生男子　①西岡矩毅　②稲見研人　③三塚彗司・小熊章太郎

中学生女子　①荻原姫桜　②沼生由希　③我妻萌乃花・上野飛鳥里

【組手競技】

小学生男子＜3年＞①相原佳登　②矢口　陸　③河野直稀・神成広夢　＜4年＞①河原啓志　②倉持功喜　③片山　涼・後藤颯斗　＜5年＞①須田魁英　②釜賀永介　③柳岡亮太・小松崎勇人　＜6年＞①小島雅也　②阿部大輝　③嶋崎真也・長島奨馬

小学生女子＜3年＞①池内青海　②黒田茉莉子　③坂本稀捺・向山怜那　＜4年＞①安部亜美　②石井梨玖　③竹下綾香・成宮光咲　＜5年＞①伊藤いぶき　②森川茉帆　③平原理子・中井成美＜6年＞①野寺未愛　②吉澤あゆみ　③今野萌香・渡辺七花

中学生男子　①三塚彗司　②湯田夏輝　③横須賀是槻・森　功武

中学生女子　①高橋夏樹　②広村彩希　③堀川ひかる・吉澤夏菜

第31回柔道親善大会

【小学生】

男子＜1年＞①高橋大知　②大館京悟　③浅岡幹大・齋藤晴紀　＜2年＞①大久保大和　②高橋　翼　③手島龍人・阿部颯太　＜3年＞①上原吉華　②白川真生　③高野武蔵・早川　翔　＜4年＞①岡安智弘　②阿部竜弥　③千葉武謙・安齋　諒　＜5年＞①村田彪雅　②神村拓生　③齋藤諒太・平野陸哉　＜6年＞①池田博紀　②萩原修平　③嶋田明義・小林正寛

女子＜1年＞①深井ことね　②藤沼咲南　③関谷怜南・大熊千尋　＜2年＞①高橋桃子　②金田望亜　③西木美優・大谷彩実　＜3年＞①田代　渚　②山岸莉那花　③昼間咲良・黒澤心華　＜4年＞①小林恵子　②鈴木里佳子　③小林礼奈・増子渚紗　＜5年＞①小林友佳　②大谷麻稀　③磯西美来・伊東明日香　＜6年＞①嶺井美穂　②高橋　唯　③内村光里・金内夢路

【中学生】

男子＜1年＞①土方啓太　②小林高也　③島村天太・杉田敏也　＜2年＞①村田健吾　②菅原　祥　③石原龍・吉田航大　＜3年＞①高橋洸平　②栗田　柊　③佐藤幸一郎・土屋和雄

女子＜1年＞①滝澤美咲　②成田優佳　③片田紅葉・嶋田　遥　＜2年＞①杉田綾音　②栗原舞子　③今泉里紗・今野瑞紀　＜3年＞①小田彩花　②小池莉奈　③伊東麗華・庄司佳奈子

【団体】

＜男子＞①八潮柔道講武館　②加須市柔道連盟　③男衾柔道クラブ　＜女子＞①三郷少年柔道クラブ　②男衾柔道クラブ　③男衾柔道育成会　＜総合＞①三郷少年柔道クラブ　②加須市柔道連盟　③八潮柔道講武館

21年度ブロック本部長会議

～40市町から64人が出席～

平成21年度ブロック本部長会議が東西南北の各地区で開催されました（実施期日及び会場は別記参照）。各会議には合計で26市14町から64人が出席し、地域におけるスポーツ少年団の運営に関するさまざまな取り組み状況が報告されたほか、団員の減少や指導者不足、市町村合併への対応、新型インフルエンザ感染拡大による各種事業への影響等々、現在スポーツ少年団活動を取り巻く種々の問題・課題に対する対応策や意見・提案など活発な意見交換が行われましたので、その概要についてお知らせします。

〔地区別実施状況〕

ブロック	期日	会場	参加者	市町村	県本部	合計
東部	11月15日	越谷市（中央市民会館）	5市4町/15人	4人	19人
西部	11月7日	鶴ヶ島市（富士見公民館）	7市4町/15人	4人	19人
南部	11月28日	戸田市（総合体育館）	11市1町/17人	3人	20人
北部	12月5日	熊谷市（UGAビル）	3市6町/17人	2人	19人
合計			26市14町/64人	13人	77人

〔ブロック別の意見交換の概要〕

■東部■■■■

＊指導者の中には、自分の子どもがいる間は一生懸命活動に参加し、中学生になってしまうと一緒に活動をやめてしまう。指導者登録は引き続き行っている人もいるが、実際の登録者数に比べ、実動者が少ないという現状がある。また、団員については、親が団に入れたがらない状況と、親が入れたくても子供がやりたがらない状況が発生している。

＊平成22年3月に合併するが、未だ合併についての話し合いがない。それに伴い、施設の確保など、課題や不安が募るばかりである。こうした場合、だれが中心になり話し合うべきなのか、それすらも分からずにいる。

＊平成22年3月に合併する。未だ合併についての話し合いがなされていないが、種目間では、話し合いをしている。

＊平成22年3月に合併する。当初、市の合併に合わせてスポーツ少年団も合併する予定で計画していたが、新市の予算編成が新市長・新議会の選出後となることから、スポーツ少年団の合併は11月を予定している。

＊団員は減少している。指導者、特にサッカーの認定員保有率が低い。対策として他種目のように、大会要項に「スポ少県大会へエントリーする指導者は認定員を保有すること」と明記してもらいたい。大型マンションが建設され人口増になり、総合体育館等でスポーツ少年団のPR活動を実施中。実施事業をマスコミに情報提供をするなど、団員拡充策を展開している。

＊各種目とも年間をとおして、大会や試合が多いことから市本部事業が少ない。その中で、毎年市内のクリーン作戦を実施しているがなかなか好評。少年団としては、健康スポーツフェスタ等の市主催事業へ積極的に参加している。

＊団員は微増。指導者は増加しており認定員保有率は80%に達している。中学生団員の拡充策として町内中学校長会と話し合いを行っている。リーダーは40人。

＊平成22年3月に合併する。登録団員の減少が続いていたため、アンケート調査を実施した。検討の結果、子どもの居場所づくり事業（町が実施）に4月から参入することを計画していたが、合併後、どうなるかは未定。

■西部■■■■

＊ここ10年ほどで、市内の児童数が約1,000人減少。団員は、最近数年は登録数が安定しているが、山間部では減少している。団員募集等に関しては、PRパンフレットの作成や、広報誌を発刊している。指導者については、有資格者率向上を目指し、毎年認定員養成講習会を開催している。また、有資格者率の向上だけではなく、資質向上も視野に入れ、各種講習会を実施。

＊本年度、単位団1団（ラグビー）増。日独同時交流の受入事業を実施した際、受入れに協力をしてくれたリーダーが、派遣資格がないため翌年の同事業で派遣をしてもらえなかった。受入れ事業を実施した市からの推薦者は優先的に派遣してもらいたい。

＊少年団のPR方法を市本部で検討中。少年団のPRも含め、団員増加策をはじめ活動の充実のためには、地域・家族・学校との連携はとても必要だと考える。

＊団員数は減少している。団員募集に関してのPRは、ホームページを活用している。しかしながら、父兄（保護者）が持っているスポ少へのイメージで入団したがらない（できない）子どももいるようである。

＊団員については、数年来、毎年1割ずつ減少が続いていたが昨年度より、若干の増加傾向が見られる。また、新型インフルエンザの影響により、国際交流事業（韓国）が相手方からの要望により中止された。

＊団員は減少傾向。本部長が教育長ということもあり、団員募集をはじめ、市内各小学校へのPRに協力してもらっている。

＊スポ少への入団に関し、町内学校と意見交換を実施。その結果、親の都合で入団できない子や、保護者が持っているスポ少へのイメージ（競技の過熱化）で入団できない子がいるということを本部として認識している。また、「子どもをスポーツ好きにさせる」ことを具現化させるべく、本部で検討を開始した。特に女子の加入率が少ないので、その点も検討中である。

＊町の加入率としては悪くはない。本部長が教育長ということもあり、団員募集に関し、各学校に協力してもらっている。継続ができない団が出てきている。特に競技に関し過熱的であった団の継続が困難になり、活動を楽しむ団は団員が増加傾向にある。こういった状況を見ると、やはり指導者の資質向上が必要であると思う。

＊団員の減少については、親の方針によりスポーツより勉強ということで学習塾等へは積極的に通わせているが、スポ少は、自身（親）も駆り出されるということで加入させたがらない。競技の過熱化については、ルールを度外視した行為は問題であるが、ルールに乗っ取ったうえでの行為は大きな問題ではないと思う。子どもたちは負ければ悔しく、うまくなろうという向上心が芽生え、その結果練習（活動）が活性化されればよいと思う。

＊親の都合で加入しない子どもだけではなく、現在はスポーツをやりたがらない子どもが増えてきている（子どものスポーツ離れ）。剣道では、以前は団体戦が5人で実施していたが、団員の減少に対応し3人で団体戦を行っている。しかしながら現在は、3人でも団体を組めない状況が出てきている。団員の減少については、増加策を講ずるよりも、まずは、指導者各々の意識改革が大事で、その環境づくりを推進していくべきであると思われる。

■南部■■■■

＊合併をして数年たつが、当時あった問題も時が解決してくれた。市の人口が増加しているが、このことが、今後どのように影響してくるか注視している状況である。

＊市本部事業は、インフルエンザの影響を考慮しスーパードッジボール・駅伝大会等を中止した。認定員養成講習会は毎年実施しているが、今後育成員の養成が課題である。市の少年サッカー連盟との兼合いなどで、施設の確保が問題になっている。

＊団員数の減少への対応策として、広報活動は実施しているが成果は表れない。母集団研修は年2回開催し、そのうちの1回は指導者を含む合同研修で実施している。施設面では学校開放を利用しているが、学校行事や他団体との重複などで確保が難しい。インフルエンザの影響を考慮して市本部事業（親子レク大会）を中止した。

＊少子化の影響もあるが、指導者も不足している。他市町においては、野球登録団が多くあるが、学童野球との兼合いはどうなっているのか？

＊増加策・PRについては単位団ごとに各小学校へチラシ配布などの対応を行っている。今年度は駅伝大会要項を配布済みである。

＊加入率20%が目標。少子化にもかかわらず、団員が増加している団があるので、研究している。市本部としては広報誌を年3回発行。母集団研修をとおして増加策を検討中。

＊学童野球が盛んであるが、スポーツ少年団には未登録となっている。東京隣接地域で、特に団員の減少傾向にある。増加策としては口コミを中心に行っている。

＊市の人口が増加している。団員は微増。中学生団員の拡充については父兄・顧問・校長・市本部長との話し合いを持ち、中学生団を新規登録した。話し合いのきっかけは、父兄からの要望であった。母集団の充実・強化が課題となっている。

＊市本部内に4つの専門委員会（総務・研修・行事・広報）を設置している。団員の増加策については中学生団員の拡充を検討している。また、複合団のほうが子供たちに魅力をPRできるのではないかという意見があることから研究を進めている。母集団の充実や指導者への報酬について検討している。

＊県本部登録締め切り後、団員が増加し、11月現在で2,000人を超える状況である。市本部では指導者の有資格者率80%を目標に毎年、指導者養成講習会を開催。他県（長野県岡谷市）との交流事業が5年ぶりに復活した。指導者の資質向上策としては認定員再研修を市本部から5年に一度受講するよう各指導者に呼び掛け実施している。

＊団は、1団減少。現在団員が多い大規模団を分割して団員の活動を充実させようとしたが、分割が困難な状況にある。市の施設整備が進行中である。

■北部■■■■

＊20年以上継続している団では現在、団員が成人して指導者として戻ってきて活動している。

＊例年、団員が10人～20人減少している。対策としては教育委員会や町内校長会に協力要請を行っている。

＊人口の多い所（大都市）の減少率が多いのではないかと推測される。その理由を調査・分析しなければ団員の増加には結びつかないのではないかと考えている。市では「川渕三郎塾」を開講している。あらゆる面からスポーツを普及し、市の掲げている「市民一人一スポーツ」の実現に向けて展開中である。

＊既存の団では、お兄さん・お姉さんと一緒に幼稚園児が活動場所に来ている。この子どもたちを取り込む方法を模索中。中学生団員の拡充については部活動との兼合いなどを検討中。指導者の養成のため町の予算を要求中である。

＊町の施策に「子ども重視」「若者の定住政策」等があり、予算が充実している。指導者（認定員保有者64人）に対し、町から年間15,000円の謝礼。中学校の外部指導者へ少年団から3種目について協力している。4種目の種目別交流大会（招待試合含む）へ、1種目あたり8万円を助成している。

＊合併後4年が経過し、市本部事業等が浸透し、落ち着きが出てきた。今年度は生涯スポーツ優良団体賞を受賞した。

＊団員数が減少している。卓球の団は登録を取り止めた。インフルエンザの影響を考慮し、各事業を中止した。合併後数年がたち、各事業がスムーズに実施できるようになってきた。今後、市内学校との協力を強め、さらなる充実を図っていきたい。

＊本部事業として実施しているレクリエーション大会など、現在、各団で団員20人はいないと実施できない事業もあるため、人数に関係なく参加できるよう内容を検討している。町広報誌にスポ少関連の大会記録等を掲載してもらい、活動をＰＲする。

スピードスケート競技・単位団紹介

ときがわスケートスポーツ少年団

２月13日に始まったバンクーバー冬季オリンピックでは、たくさんの日本人選手の活躍が報じられ、皆さんもハラハラドキドキしながらも、素晴らしい記録や演技を見ると思わず、テレビの前で拍手を送ってしまった、なんてこともあったのではないでしょうか？

スポーツ少年団に所属していた選手も数多く出場し、あらためてジュニアスポーツの重要性が感じられました。

今号で紹介するのは、バンクーバーオリンピックでも３つのメダルを獲得した、スピードスケートをメイン種目としている「ときがわスケート」少年団です。

「ときがわスケート」少年団の活動

「ときがわスケート」少年団は、埼玉県内で唯一スケート競技で登録している団です。ホームグラウンドはときがわ町の町営「上サ（かさ）スケート場」ですが、天然氷の屋外スケートリンクのため、12月下旬から２月中旬までしか地元での練習はできません。それ以外の練習は、土・日曜日を利用して軽井沢へ練習に出かけたり、ショートトラックの練習は平日の夜に、川越スケートセンターで行われる他団体との合同練習などにも参加しています。

練習の中心はアウトトラックという、400ｍのトラックを周回する、一般的に言われているスピードスケートです。夏は陸上トレーニングやローラースケートなどの練習を行っています。アウトトラックの大会には年５回程度出場しています。

また、今年はショートトラックの大会が４月にあるため、３月のシーズン後半はショートトラックの練習をしています。ショートトラックの競技はタイムを競うのでなく、順位を競う競技ですが、公式大会でのタイムを申請することにより、級を取得することもでき、団員たちの目標にもなっています。

もちろん、競技以外の活動もあります。キャンプや川遊び、また地元で行われている氷祭りへの参加などもしています。

練習を取材しました

３月１日、川越スケートセンターで練習しているところへお邪魔しました。

迎えてくれたのは指導者の荒井独行さん、ご本人も現役のスケート選手ということで、がっしりとした体

（次ページ下段へ続く）

指導者の荒井先生は現役のスケート選手

将来はオリンピック選手？　大沢さん

低い姿勢でのホームの確認
関口君（左）と中島君（右）

町営「上サ（かさ）スケート場」

このスケート場は、昭和51年、地元の体育関係者やスポーツ少年団の方たちが奉仕作業によって造成等が行われ、翌年完成しました。すぐそばを流れる都幾川の水をポンプでくみ上げて水を引き、凍らせる天然氷のスケートリンクです。小学校の授業にもスケートの時間があり、このリンクが使われています。

少年団活動の安全対策

新年度になり、新しく団員を迎えるにあたり、活動場所、使用道具の再確認をしましょう。

《活動場所》

・屋外では

サッカーゴール、バックネット等の設置状況、ネットの確認。小石、ガラス片、釘等の撤去。活動場所の周辺（フェンス等）など隠れた危険個所のチェックが必要です。

・屋内では

使用道具の保管場所からの準備、片付けの確認。卓球台やネット類の点検。指定された場所以外の立ち入りのチェックのほか、床のキズ（ささくれの有無）や、剣道では竹刀のささくれのチェックなども重要です。

これらの確認は、指導者、母集団、団員が一緒になって確認しましょう。

《自宅から活動場所までの経路の確認》

通常の活動場所は通学校が多いと思われますが、子供たちは友達との関係から通学路ではない経路で移動したり、自転車を利用することもあると思います。

指導者と母集団でいまいちど経路の確認をされてはいかがでしょうか。

《非常時の連絡体制の確立》

個人情報云々といわれますが、連絡網をしっかり作っておくことも大切です。事故が起こったときのために病院の確認（診療科目、診療日、診療時間、移動時間）もしておきましょう。

＊

安全を確認して、団員とともに楽しい少年団活動をしましょう。

【この季節でも熱中症にご用心】

熱中症は真夏の炎天下にだけ起こるものではありません。春先、急に気温が上がって、まだ体がなれていないときにも起こります。とくに、新入団の団員や子供の入団とともに何年ぶりかにグラウンドに出てきたお父さんは、注意が必要です。

また、ゴールデンウィークの頃は紫外線にも注意が必要です。試合などで応援の母集団の皆さんは、日焼けにも注意しましょう。

格で落ち着いた雰囲気のある方でした。

この日練習に参加していたのは、6年生の中島泰樹君と関口樹君、そして4年生の大沢七海さんでした。4月に行われるショートトラック大会のための練習で、他団体との合同練習のためか、初めは3人とも少し緊張した面持ちでした。場内は気温10℃前後のため寒いのですが、長袖Tシャツの上に薄いトレーニングウエアを着ての練習は、見た目寒そうですが、練習に入るとすぐに暑くなってしまうそうです。

この日練習に参加した（左から）
関口君、中島君、大沢さん

リンクに入ると軽くウォーミングアップを行い、ホームのチェック。低い姿勢を保ったまま体重移動の練習ですが、動きは少ないもののとても大変そうに見えました。そのあと、トラックを使った周回練習をしましたが、そのスピードは想像していたものよりはるかに速く、上体が上下しないように保ちながら他の選手との距離を考え、丁寧にすべっていました。

ちょっとしたミスで、自分のスケート靴で自分の足を傷つけてしまったり、他の人にぶつかってしまったりするので周回練習中は、特に集中して行っていました。

6年生の2人に「練習は楽しい？」と聞いてみると、2人とも「練習中は楽しくないけど、速く滑れるようになると、すごく楽しい！」と笑顔で答えてくれました。また、4年生の大沢さんに「どうしてスケートを始めたの？」と尋ねると、「きれいで、かっこいいから」という答えが返ってきました。私も取材へ行き、実際にすべっている団員の姿を見たとき、ビックリを通り越して感動しました。団員のすべっている姿がすごく「きれい」で「かっこいい」のです。

埼玉県出身のスケート選手は、アルベールビルオリンピックで銅メダルをとった秩父市出身の井上純一選手がいますが、近い将来、ときがわスケート少年団から素晴らしい選手が生まれるかもしれませんね。

まず参加　たのしくスポーツ　みんなが主役

（財）埼玉県体育協会キャッチフレーズ

平成21年度埼玉県スポーツ少年団指導者現地研修会

～鬼怒川に指導者280余名集う～

平成21年度埼玉県スポーツ少年団指導者現地研修会が、1月30・31日、栃木県鬼怒川温泉で、県内から指導者280余名が参加して開催されました。

30日14時、開催にあたって藤沼本部長から①団員が減少していることをくい止めたい。②指導者は大勢いるが認定員の資格取得者が60％程度なので、80％程度まで引き上げたい。③リーダーの育成に力を入れたい。日独同時交流をとってみても、埼玉県からの派遣枠が6人あるにもかかわらず、1人というのでは寂しい。④安全対策の強化。各団で積極的に対応してほしい。⑤体力の向上に取り組んでほしい。⑥スポーツテスト判定員の育成を行っているので、積極的に参加し資格を取得してほしい。⑦女性の団員および指導者を増やしたい。⑧認定員の再研修をもっと積極的に実施したい。などなど、目標や希望を含めたあいさつがありました。

専門委員会からの報告のあと、REGISTA有限責任事業組合代表　谷塚哲氏による「事故やケガのリスクマネジメント」と題した講演がありました。「スポーツと事故・怪我」「スポーツに内在する危険」「指導者と安全配慮義務」「スポーツ事故と法的責任」「保険について」など、身近なことについて詳しい内容の講演でした。

講演会の後、種目別の分科会そして宴会場に場所を移しての情報交換会が行われました。

2日目は、前日同様、谷塚哲氏の「事業のリスクマネジメント」の講演がありました。団の運営に係わる「マネジメントの重要性」「クラブと法人」「任意団体」「クラブと契約」「事業者と消費者」「マネジメント」「個人情報」「特定非営利活動法人（NPO）」「非営利とは」「NPO法人の税金」「税法34業種」「技芸教授業」「その他の税金」など、詳しい話を伺い、有意義な2日間でした。

平成21年度日本スポーツ少年団顕彰

平成21年度日本スポーツ少年団顕彰事業による市町村本部の表彰は次の団です。指導者については前号でお伝えしたとおりです。

●市町村本部

・上里町スポーツ少年団／寄居町スポーツ少年団（いずれも昭和57年4月創立）

育成広報委員会からのお知らせ

スポーツ少年団実態調査

～集計作業を進めています～

昨年の10月から11月にかけて、市町村本部（70本部）、単位団（100団）、指導者（500人）、団員（小学4年生以上1,000人）を対象にしたスポーツ少年団実態調査を10年ぶりに実施しました。

市町村本部をはじめ該当となった単位団、指導者、団員の皆さんにはご協力をいただきありがとうございました。

現在、育成広報委員会において集計作業を行っています。今後、3月中にデータ集計を終え、4月に10年前の調査結果（データ）との比較や意見集約、5月に分析、考察などの作業を順次進め、適宜、本部委員会への報告を経て今年の秋には調査結果の概要版パンフレットを作成のうえ、市町村本部をはじめ、指導者や単位団等へ配布するとともにマスコミにも公表する予定となっています。

なお、アンケート調査では基本項目に対する回答のほか、団運営や指導上の悩み、あるいは県本部等への意見・提案・要望なども多数寄せられています。そこで、集計作業の進捗状況に合わせ、調査の概要報告とともに指導者の皆さんの関心の高い項目を中心に情報誌で取り上げていきたいと考えています。

編集後記

団員の減少をくい止める対策としては、教育委員会経由で学校への働きかけ、広報紙の発行、市町村の行事に参加してPRなど、ブロック本部長会議でも話題になりましたが、いちばん効果があるのはクチコミかもしれません。そのためには魅力ある団づくりを目指しましょう。

埼玉県スポーツ少年団事務局気付「育成広報委員会」
〒330-0063さいたま市浦和区高砂3-14-1　埼玉県自治会館内
TEL：048-822-5171　FAX：048-822-5174
E-mail：saitamaken@japan-sports.or.jp